

第9回「REIC 防災セミナー」開催報告

6月16日（月）16：00～16：45、REIC第12期総会終了後、同会場（日本財団ビル）にて第9回セミナーが開催されました。講師は名古屋大学教授の福和伸夫氏です。福和氏は、専門は建築耐震工学、地震工学、地域防災で現在名古屋大学減災連携研究センター長ほか多くの要職に就かれています。

講演題目は「総力を結集し南海トラフ巨大地震を凌ぐ」です。最初に、現在の都市部に林立する高層建物の危険性に関する説明がありました。高層建物は変形しやすく、特定の周期で揺れやすいこと。特に軟らかい堆積地盤上の高層建物は特定の周期で揺れが増幅されることが問題で、実は都市部では土地開発の経緯（入江や川、沼地等を埋め立てて造成）から、そのような場所に官庁や企業の重要な建物が建っていることが多いということです。都市の中では、名古屋は比較的安全であるということも強調されていました。

南海トラフ巨大地震については、先頃最大被害想定として死者32万人超という数字が出ました。総力を結集し南海トラフ巨大地震を凌ぐためには、一般の方の啓発よりも専門家の意識を変えることが重要ということです。例えば、防災に携わる専門家といえども、自身の耐震対策や災害に対する備えを疎かにしている人が非常に多いそうです。また、昔から言われている三助の教え（現在の自助、共助、公助）が防災対策・災害対応を考える際の基本になるということでした。最後に、福和先生がセンター長を務めている名古屋大学減災連携研究センターの「減災館」が親子免震システムを取り入れており、研究（耐震研究・揺れる建物）・備え（人材育成・教育・啓発）・対応（免震・非常用設備）の各拠点となっていると説明されました。

次回は、8月頃に第10回を予定しております。講師、講演題目等詳細は、決まり次第またご案内します。